

令和4年度(2022年度) 第1回バス機能強化検討部会 議事録

I 日時等

1. 日 時：令和4年(2022年)11月2日(水) 午前10時～午前11時30分
2. 場 所：熊本市役所 議会棟2階 予算決算委員会室

II 主な内容

1. 開会
2. 部会長挨拶
3. 議事
バス機能強化策の検討について

(事務局)

- ・資料1、資料2を用いて説明

(部会長)

- ・ただいま議題について事務局より説明があったが、これに関して何かご意見、ご質問等はないか。

(委員)

- ・仮に産業道路に導入した場合、自動車速度や渋滞への影響はどうか。また、車線幅員は同じなのか。

(事務局)

- ・自動車速度についてもバスレーン導入路線の方が早くなっている。
- ・バスレーン導入における我々の基本的な考え方としては、「交通渋滞」と「公共交通」の課題がある中、一方に偏らず両面のバランスを取りながら解決手法を検討していきたい。
- ・産業道路については、歩道も含めた既存幅員の中で中心部方面に1車線バスレーンを追加できないかということで検討している。

(委員)

- ・産業道路における今の検討状況はどうなっているのか。他に導入対象として考えている路線はあるのか。

(事務局)

- ・産業道路については、先行するモデルケースとなる事業と考えている。その検討状況については整理したうえで改めてお示ししたい。
- ・その他路線への導入については、現時点では明確に定まっておらず、今後検討していく内容となる。

(委員)

- ・バスレーン検討路線については、可能な限り案を多く挙げてほしい。我々も比較対象として検討しやすい。

(委員)

- ・バスレーン導入にあたっては交通流動を阻害しないような形にしてほしい。バスベイ設置も念頭に置いて検討してほしい。
- ・朝は中心部方面、帰りは郊外方面が渋滞しているため、時間による通行帯の変更（リバーシブルレーン）を行うのはどうか。

(事務局)

- ・バスベイ設置については、新たな道路整備を行う場合は、可能な限り導入を進めているところであるが、既存道路では幅員の関係上導入は難しいと考えられる。
- ・リバーシブルレーンは熊本ではなかなか馴染みの無い手法であり、メリットの一方でデメリットもある為、導入については研究していく必要がある。

(委員)

- ・基幹交通軸の強化というからには、8軸全方面でのバスレーン設置を前提とし、その中から優先順位を検討してもらえないか。
- ・今後の検討スケジュールや次年度予算で考えている内容があれば教えてほしい。

(事務局)

- ・方面によっては検討にあたり既存調査によるデータのみならず、新規の調査が必要となる可能性もある為、現実的にどこまで可能であるのかを踏まえながら今後検討させて頂きたい。
- ・検討については来年度以降もご意見を伺いながら進めていきたい。次年度予算でも関連する形で何かしら実施していきたい。

(委員)

- ・バス分担率がコロナ禍でどれだけ変わったのかは気になるところ。
- ・バスレーン導入はありがたい話だが、導入により定時性・速達性がどのくらい上がるのか、定時性・速達性が上がることにより利用者がどの程度増えるのかといった数字があると良い。
- ・どのように行動変容を促すのか、ソフト対策の検討も併せて必要。
- ・バスレーン導入が進めば輸送量を増やさざるを得ない為、事業者側も経営的な課題を解決しながら、例えばBRTなど新しい視点も取り入れていく必要があると思う。

(事務局)

- ・公共交通への転換により、効果として「利用者増」と「渋滞解消」が現れることがベストであると考えている。
- ・バスレーンだけではなく、例えばパークアンドライドのような他の施策も併せたパッケージとして打ち出していく必要があると思っている。

(委員)

- ・益城から市役所方面の移動では、健軍でバスから市電に乗り換える人が多いため、一体的な料金設定ができないか以前検討したが、バス事業者の収支を考慮すると困難であった。このような事業者間の調整を、基幹交通軸強化の一端として行政で実施してもらえないか。

(委員)

- ・提案だが早い段階で産業道路の実証実験を行えば、データ取得ができ比較検討できるのではないか。

(事務局)

- ・社会実験は様々な検証手法の一つではあるが、対象路線や区間により検証手法は変わる為、適切な検証手法を今後整理していきたい。

(部会長)

- ・ご意見を踏まえると、検討路線・区間についてバスレーンの必要性や路線区間等の考え方の条件で絞り込むことは概ね了承するが、まずは基幹公共交通軸の全方面で考えて頂きたいということかと思う。
- ・社会実験については、例えば5車線化を目指すにも関わらず、仮に4車線で実験した場合に渋滞への大きな影響を与えることになり、市民の合意が得られない可能性がある。その為、ある程度導入する形に近い形で実施する必要があると思う。社会実験ができる環境になったら、一つの検証方法として、事務局でも検討頂くと良い。
- ・まずは全体的に広く浅く、バスレーン導入可能性のある区間について検討いただく中で、実現可能性や予算等を踏まえながら議論していくということで、1回目の会議を終えたい。